

ひとくちに「英作文」といっても、3つのレベルがあります。かりに、初級・中級・上級と名づけましょう。

初級は、「三単現の-s」に始まり「仮定法過去完了」に至るさまざまな文法項目がちゃんと学習者の言語脳に定着するように、短文を作って反復練習をするレベルです。

中級は、日本語で書かれている文章を「英訳する」段階。翻訳者よろしく忠実に訳していく場合もあれば、和文の趣旨を把握したうえで自分なりに英語で表現していく場合もあるでしょう。

そして**上級**は、**指定されたお題と語数の範囲で、論旨を自分で組み立てながら英語で表現していく**段階です。自分の「主張の方向性」を決め、結論に至るまでの「複数の論拠」をふくらませていく——これを英語で行うわけですから、かなり高度な知的作業となります。

ChatGPTは、どの段階でも有能なサポート役となりますが、とくに「上級」段階でのサポート機能はすばらしいものがある。単なる自動翻訳ソフトではぜったいにできないような、いい仕事をしてくれます。

上級レベルの英作文教材が足りない

3つの段階それぞれをあらためて見てみると、英語学習ツール(教科書・参考書)の現状は——

● 初級:

文法事項を習得し、基本的な語彙の使い方を身につけるのがメインの目的。およそ世の中に数多く存在する「中学生・高校生向けの学校英語の問題集」が典型的な学習ツール。そこに掲載されている「穴埋め」や「英語の短文づくり」の練習問題を解いていく。基本的に正解は1つか2つなので、勤勉さえあれば問題集の本篇・解答篇で独習できる。

● 中級:

書くべき内容が日本語で示されてある。これを翻訳家よろしく英訳する。本番では語彙力が試されるし、**日本語に特有の主語省略やロジックの飛躍を、いかに英語のロジックで補っていくかもポイント**。このレベルの英作文は「受験英語の問題集」や「和文英訳のコツの参考書」が多数ある。もっとも、解答篇に掲げられた英文は、あくまで「ひとつの例」。英文添削を都度うけるのが理想ではある。

● 上級:

数少ない難関大学の入試や英検1級・準1級の英作文問題が、これにあたる。書くべき内容を自力で構築するわけで、いわゆる語学力のみならず、**論理構成力と社会常識が問われる**。ところがこのレベルをカバーする教材は極めて限られており「英検問題集」くらいしかない。難関大学の入試問題集(いわゆる教学社の「赤本」など)の解答篇にも、さらっと解答例は出ているが。

本来、上級レベルの英作文の指導は、講師がていねいに手作り感あふれる添削をするしかありません。ところが、このレベルの